

きょうと福祉倶楽部だより

2009年7月号

長い梅雨もようやく明け、
本格的な夏がやってまいりました。

我が家では、夏前のこの季節の恒例行事である
梅の香りが家中ただよっています。

今年は梅干しをお休みし、梅酒&梅酢シロップづくり…
青梅に氷砂糖、我が家では酢をたっぷり入れて作ります。
今回は、大変珍しい天然のブルーベリーを

ミックスしたお酢シロップも作りました。

夏の間梅シロップは水で薄めさっぱりとした
さわやかな味を楽しむことができます。

梅酒は食前酒として、
食欲低下するこの季節には食欲 up 効果もあるようです。

これからまだまだ暑い日がつづくようです。
皆様くれぐれもお大事にお過ごしください。

さて今回は、講演会に参加してくれたヘルパーさんのレポート
を紹介します。

7月7日 すまいる三周年記念講演会に参加して…

第一部は茨木市の地域共生ホームであるすまいるの職員や利用者、
職員の子ども達が司会を務めて場を盛り上げてくれました。



すまいるには職員やその子どもたち、利用者、
と一緒に一日を過ごしています。

当日はみんなで歌を歌ったり
とてもお元気な夫婦の紹介がありました。

利用者の元気に驚かされ、
かわいい子ども達の歌声や司会にみんな癒され、
笑いの絶えることのない楽しい一時を過ごしました。



第二部は三好春樹さんの講演で
認知症の方との正しい向き合い方をおもしろおかしく、
なおかつわかりやすく話してくださいました。

まず三人一組になり
三好さんが出した質問に対して3人で
話し合いながら進めていくものでした。
質問も難しい堅苦しいものではなく、
例えば…



「昔の人は出かける前どんな行動をとるでしょう」とか
「怖い女上司は何型でしたでしょうか」
など、場を和ませ、知らない人とも話し合いで仲良くなれるような、
そんな質問ばかりでした。

三好さんのお話は認知症の高齢者の切迫感に 共感する 振り回される
認知症高齢者が指を指したそのものを指しているのではなく
その先を指している 問題行動の原因は単に職員を困らせたいのではなく
自分の中の困ったことをその問題行動によって比喻していることが多く
だから問題行動は無くすものではなく受け入れるものである
ということなど、聞いていて退屈と思うことが少しもなかった講演で
話し方が大変上手でした。

私が1番印象に残っていることは福祉には、3Kという
きつい・汚い(臭い)・危険(現在は給料が安い)

という悪いイメージではなく、

いいイメージの3Kが三好さんの中にはあったことです。

三好さんの3Kは感動・工夫・健康的

という考え方でした。本当にためになったので、
しっかり覚えておこうと思います。



最後に…介護職に嫌われないようにするには、
体重が重くないこと、重いと動かしてもらう時に介護職の方が
腰を痛めるからです。それに、人柄がいいこと
であったので日々気をつけていこうと思いました。

きょうと福祉倶楽部 ヘルパー 吉川 歌織

「できること」が増えるより 「楽しめること」が増えるのがいい人生

佐藤 茂太 「いい言葉はいい人生をつくる」より

あなたの声 投稿お待ちしております♪

みなさんの身近に起こったエピソードやイラストを募集しています
こんなこと知って欲しい、やってほしい、ご意見、ご感想 etc・・・
なんでもOK です(^ ^)

イニシャル 匿名希望 OK きょうと福祉倶楽部 おたより係まで



高機能の自閉症者と集団

社会性、コミュニケーション、想像力。

自閉症スペクトラムの3つ組みの困難さと言われています。
高機能の広汎性発達障がいの方では、会話は一定成り立つものの相手の話の意図をくみ取りつつ相手の気持ちを考えて対応するという対人相互作用に問題をかかえておられる場合が多いかと思えます

突然の変化や、思い通り(予定通り)に事が進まない時、突然過去の記憶が脳裏に鮮明に浮かぶフラッシュバックなどに対して起こすパニックも、対人関係を築く上で障がいとなります。

こうした特性から、「一人で安心できる場」

を提供してクールダウンしてもらい、
という対応が多く見られます。そうした対応だけ、
というケースも少なく無いようです。

個室を用意したり、机の両側に障壁を作ったの
世界に没入できる環境をつくる、などがそれです。

しかし、こうした対応は、確かにクールダウンには役立つと思いますが、「人と関わりながら生きていく」という課題の前には、小さな防御策でしかないとも言えると思います。

自閉症スペクトラムの人は、確かに「一人が快適」なのでしょう。
でも、「人と居ても大丈夫」、「人と一緒に楽しい」
という認知を獲得することなしに、「人と関わりながら生きていく」
という課題を乗り越えることはできません。

そのためには、家族以外の第三者と関わる、安心・安全な人
たちと場を共にする＝集う、語り合う、
という集団体験が不可欠だと思います。
誰でも、知らない人ばかりの集団に入るのは不安です。

でも、多くの定型発達の人たちは、集団にとけ込む術を人生
の中で獲得してきているために、
少しの時間で集団になじんでいくことができます。

この術を獲得できていない人たちは、集団への参加を恐れたり、
集団に入っても自分が話したいことだけを話し続けるなど、
集団になじめない行動をしてしまいがちです。

その集団が、安全・安心な人たちで
障がい特性を持っていてもそれを受け入れながら迎え入れる
態度であれば多少時間はかかりますが、
集う、語り合う、一緒に楽しむができるようになります。

私が副理事長を務める NPO 法人ノンラベルの「居場所」では、
日々こうした受容、集団力動の変化の中で
高機能の自閉症スペクトラムの人たちが新たな人間関係を築いてく
れています。
人間には、「集団」で気持ちを通じ合い、分かち合うことが不可欠である
ことを強く感じさせてくれています。

教育と人間関係の相談室カナナ
代表・木下秀美(精神保健福祉士)



いのちの作法 上映会

あなたは命を守り育てることを行政の柱に据える街と
命を後回しにする街とどちらを選びますか？

「いのちの作法」は命を柱に据えた
みちのくにある貧しい村の挑戦を描いた記録映画です。
皆さんお出掛け下さい。

日時 2009年11月14日(土) 14時～
場所 長岡京市中央生涯学習センター (バンピオ1F)
メインホール 入場無料

主催 有限会社おとくに福祉研究所きょうと福祉倶楽部

有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東台101号

TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808

E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp

